昨今の年賀状事情と世界のメッセージ文化

国際部　矢野　浩史

皆様は毎年、どれくらいの年賀状を送っていますか。年賀状は、年に一度、お世話になった方々や親しい人へ感謝の気持ちを伝える貴重な機会です。個性を表現したデザインや手書きのメッセージを添えて送ることで、人とのつながりを大切にする日本ならではの風習ともいえるでしょう。しかし、デジタル技術の進化やライフスタイルの変化により、年賀状を送る人が減少しているのも事実です。

ところで、世界の国々ではどのような形でメッセージのやり取りが行われているのでしょうか。本コラムでは、年賀状の歴史や発行枚数の推移について振り返るとともに、世界各国で特徴的なメッセージカード文化についても調べた事例を紹介します。

年賀状の起源と発展

日本の年賀状文化は、平安時代の「年始回り」が起源とされています。遠方の人々へは書状で新年の挨拶を伝えていたといわれています。江戸時代には、飛脚制度の発展により庶民の間にも広がり、明治時代には郵便制度の確立とともに、現在のような年賀状文化が形成されました。

年賀状をやり取りすることのメリット

年賀状を送ることには、いくつかのメリットがあります。まず、日頃お世話になった人々へ感謝の気持ちを伝える良い機会になります。特にビジネスの場では、取引先や顧客との関係を深める手段としても活用されています。また、年賀状は久しく連絡を取っていなかった友人や知人との関係を再構築するきっかけにもなります。さらに、手書きのメッセージやデザインを加えることで、デジタルメッセージでは伝えにくい温かみを表現できる点も魅力の一つです。

年賀状の発行件数の推移と減少の要因

年賀状の発行枚数は、2003 年の約 44.5 億枚をピークに減少し、2023 年には約 40%まで落ち込みました（出典：総務省統計局）。

減少の主な要因として、以下の点が挙げられます。

1. **デジタル技術の普及**

   SNS やメールなどで手軽に新年の挨拶ができるようになり、特に若年層を中心にデジタルメッセージが主流になっています（出典：総務省通信白書）。

2. **環境意識の高まり**
　紙の消費削減を目的として、企業や個人が年賀状の送付を控える傾向が強まっています。

3. **郵便料金の上昇**
　郵便料金の値上げが、コストの面で年賀状離れを加速させる要因になっています。

4. **ライフスタイルの変化**
年末年始の過ごし方が多様化し、年賀状にこだわらない人が増えています。

世界のメッセージカード文化

　日本以外の国々でも、新年に限らず特定の機会にメッセージカードをやり取りする文化があります。それぞれの国の風習や歴史的背景に基づき、独自のカード交換文化が形成されています。

1. **アメリカ・イギリス：グリーティングカード**
　誕生日、クリスマス、母の日など、多様なイベントでグリーティングカードを贈る習慣があります。多くのカードメーカーが市場を支え、個人のメッセージを添える文化が根付いています（出典：Hallmark 社）。

2. **中国：春節の「紅包」**
春節には「紅包（ホンバオ）」という赤い封筒にお金を入れて贈る習慣があります。近年はデジタル紅包も普及しています（出典：WeChat）。

3. **インド：ディワリのグリーティングカード**
ヒンドゥー教の新年を祝う「ディワリ」では、親しい人へ感謝のカードを贈る習慣があります。

4. **フランス：新年の挨拶カード**
クリスマスよりも新年の挨拶を重視し、家族や友人にカードを送る習慣があります。

5. **ドイツ：お祝いのメッセージカード**
誕生日や結婚祝いなど、あらゆる祝事でカードを贈る文化が根付いています。

6. **韓国：旧正月の「セヘボン」**
   韓国では旧正月に「セヘボン（新年の挨拶）」を行い、手紙やカードを送ることもあります。

7. **ブラジル：感謝のカード**
   誕生日や卒業、職場での感謝の気持ちを伝える際にメッセージカードを贈る習慣があります。

今後の年賀状文化

年賀状の発行枚数が減少し、デジタル化が進む中でも、手書きのカードを通じた温かみのあるメッセージの価値は変わりません。今後は、紙の年賀状とデジタルメッセージが共存する形で進化していくと考えられます。

また、日本独自の年賀状文化が縮小する一方で、世界のメッセージカード文化の多様性を参考にしながら、デジタル技術を活用した新しい形のコミュニケーション手段が発展していく可能性もあります。環境配慮やコスト面を意識しながらも、感謝やお祝いの気持ちを伝える文化は、形を変えて受け継がれていくでしょう。